

# フローン55

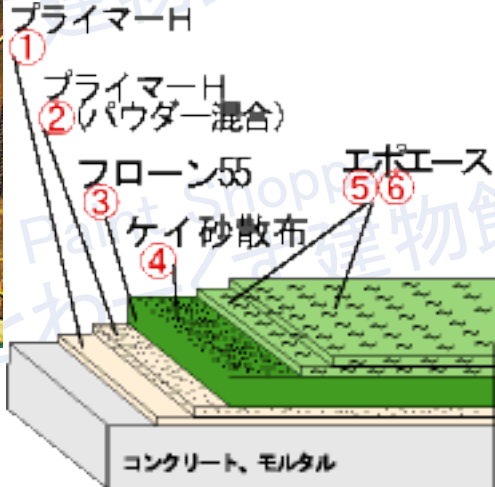
耐久性・耐衝撃性のある厚膜を求められる床に。

高光沢性 耐アミンフラッシング性

耐薬品性 耐磨耗性

耐衝撃性 レベリング性

pw べいんとわーくす  
http://www.paint-works.net



**11** 1㎡辺り1.5kg流し延べ、コテにて平滑に塗り広げて下さい。  
(A液とB液配合後40分以内に使い切して下さい。)

**12** フローン55塗装直後に乾かないうちに、ケイ砂を全体に均一になるようにリシガンや手蒔き、ふるい等で散布します。

**13** フローン55が乾いたら(20℃で12時間以上24時間以内)余分なケイ砂をホウキ等で、取り除きます。

**1** 下地素材(コンクリート・モルタル)表面に形成されるレイタンスによる脆弱層や、ホコリ、油分など付着物は完全に除去して下さい。(気温5℃以下湿度85%以上や天候の悪い場合の塗装は避けて下さい)

※新設コンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。

**2** 塗料が着いては困る所はテープやマスキングで養生して下さい。

**3** 【下塗り】  
プライマーHをA液B液共よく混ぜてください。

**4** A液とB液を1:1の割合で配合し均一になるようによくかき混ぜます。

※配合は重量比で量ってください。

**14** 【上塗り】  
エポエースをA液B液共よく混ぜてください。

**15** A液とB液を3:1の割合で配合し均一になるようよくかき混ぜます。

※配合は重量比で量ってください。

**16** ローラーで塗りのばします。(A液とB液配合後2時間以内に使い切して下さい。)

**5** スミなど狭い箇所などはあらかじめ目地はけなどで塗装しておきます。

**6** ローラーで塗りのばします。(可使時間:2時間以内。)(2時間(23℃)以上乾燥させます。24時間以内に上塗りして下さい。)

**7** もう一度プライマーHのA液とB液を1:1の割合で配合し混合液に対してフローンパウダーを1:1で配合し均一になるように攪拌します。

※配合は重量比で量ってください。

**17** エポエースをローラーで塗りのばします。5時間以上24時間以内(23℃)にもう一度エポエースを塗り仕上げます。(A液とB液配合後2時間以内に使い切して下さい。)

**18** 【完成】  
24時間以上(23℃)乾燥させます。  
※軽歩行開放時間(エポエースが完全に乾く前に養生を取り除いてください。)

**8** ローラーで塗りのばします。(可使時間:2時間以内。)(2時間(23℃)以上乾燥させます。24時間以内に上塗りして下さい。)

**9** 【上塗り】  
フローン55をA液B液共に均一になるよう十分に攪拌してください。

**10** A液とB液を8:1の割合で配合し均一になるよう攪拌機でよく混ぜます。

※配合は重量比で量ってください。

- 気温5℃以下湿度85%以上の場合、また降雨、降雪、強風時および天候不良となる恐れがあるときには塗装を避けてください。
- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、有機ガス用の防毒マスクなど適切な保護具を着用し、皮膚に触れないようにし必要に応じて保護メガネ、保護手袋長袖作業着を着用して下さい。
- 直接皮膚に触れないように注意してください。もし触れた場合、ウエス等で充分に拭き取り、中性洗剤で洗ってください。眼に入った場合は、多量の水で洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 良くフタをし子供の手の届かない一定の場所を定めて、空気中の湿気と反応しますので、空気が入らないように密栓し冷暗所に保管して下さい。容器は中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 製品安全データシートをよく読んで取扱ってください。
- コンクリート、モルタル面の表面に形成されるレイタンス(遊離アルカリ)、エフロレッセンス(白華)、砂、ホコリ、ゴミ、等は密着不良の原因となる為、ワイヤー付きポリッシャー等で完全に除去して下さい。
- 新設のコンクリート、モルタル面は、打設後約40日間以上の養生期間をとってpH9.5以下になってから施工して下さい。
- 降雨後は、下地が水分を含んでいる為、2日以上十分に乾燥させて下さい。
- 施工時及び施工後の換気を十分に行ってください。
- 下塗りと上塗り塗料は絶対に混合しないで下さい。また、用具などの共用も避けて下さい。
- 主剤と硬化剤は必ず規定の配合比(重量比)で配合して下さい。可使時間は40分(23℃)です、A液とB液混合後40分以内に使い切して下さい。
- 太陽光の当たる場所では黄変します。淡彩色は短時間でも黄変します。
- 塗装条件、環境などにより、塗膜の本来の耐久性が十分に発揮されない場合があります。
- 施工には熟練された技術が必要となります。